

開 議

○内谷邦彦議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は10番、渡部秀樹議員の1名であります。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○内谷邦彦議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

それでは、順次ご指名いたします。

金子豊美議員の質問

○内谷邦彦議長 順位6番、議席番号12番、金子豊美議員。

(12番金子豊美議員登壇)

○12番 金子豊美議員 おはようございます。

共創長井の金子豊美です。よろしくお願いいたします。

新緑の色増す季節を迎えました。ここ数日は寒暖の差が激しく、体調を崩される方々も多く見受けられます。私も含めて体調管理は十分に、今後の活動に向かっていきたいと考えております。

一昨日であります、長井市観光協会の総会

が開催されました。市長をはじめ、市議会議員の方々にもご案内をいただき、参加してきたところであります。本年度は役員の改選もありまして、会長に菅野さんが就任、そして副会長3名、常任理事、皿監事等々、役員が新たな体制に決まったところであります。その中で、会長、副会長3名、常任理事につきましては、昭和37年、38年、39年生まれの方々と組織されております。時代の流れを感じますが、その60代前半の方々が今一番と脂が乗っているのではないかと感じたところであります。今後の観光事業に期待を申し上げながら、今日の一般質問をさせていただきます。

最初に、今日、6月5日は環境の日であります。世界環境デーです。1972年12月の国連総会で制定された国際デーの一つであります。この日、ストックホルムで開催された国連人間環境会議で人間環境宣言が採択され、国連環境計画が誕生し、国連では日本の提案により、この日を世界環境デーと定め、日本では1993年に環境基本法で環境の日と定められました。事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高める日とすることです。世界各国でもこの日に環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、様々な行事が行われております。現在、日本の環境省では、総合環境政策、大気環境・自動車政策、地球環境・国際環境協力、地域脱炭素、水・土壌・地盤・海洋環境の保全、環境再生・資源循環、保健・化学物質対策、地方環境対策等の政策を行っております。

また、今日は6（ろく）・5（ご）で、「らくご」の語呂合わせの日でもあります。落語の日とされております。また、6（ろう）・5（ご）で、語呂合わせから、老後の日とも呼ばれております。

富山県東部の中新川郡立山町を流れる黒部川

水系の黒部川に建設された水力発電専用のダムである黒部ダム、1956年、昭和31年着工、171人の殉職者を出し、7年の歳月をかけて、1961年、昭和36年1月に送電を開始し、1963年、昭和38年6月5日に完成しました。黒部市から南東約40キロメートル、長野県大町市から西約20キロメートルの黒部溪谷に位置し、標高は1,454メートル、関西電力が建設、総工費は当時の費用で513億円、関西電力資本金の5倍という金額とのこと。私が満3歳の誕生日を迎える2日前の出来事でした。

長井市の環境資源の一つ、長井ダム、ながい百秋湖を活用した観光事業を通じて交流の場が広がり、より多くの方々が長井市を訪れ、自然や人、文化と触れ合いながらにぎやかなまちづくりになることを期待し、一般質問を行います。

質問項目は2つ、質問事項は4つです。

初めに、パートナーシップ協定について伺います。

施政方針（3）産業の活力あふれるまちづくり（産業・しごと分野）の中で、「タスパークホテル長井はパートナーシップを結ぶ株式会社八芳園と連携し、地場産品を使ったメニュー開発や地域性を生かしたイベントの開催を通じて誘客コンテンツを強化し、さらなる魅力化を図ってまいります。多くの市民や観光客にお越しいただくことで、みんなに親しまれる交流拠点として、また、観光業や地場産業の活性化の拠点として、これまで以上に地域経済の発展に貢献する施設を目指してまいります。」と述べておられます。また、（5）ともに創る持続可能なまちづくり（市民活動・行政分野）の中では、「パートナーシップ協定を提携している株式会社八芳園とは首都圏での特産品販売や文化の紹介等、効果的な情報発信を行っています。こうした協力団体との連携を最大限に生かした様々な取組により、今後とも関係人口の創出、拡大を目指してまいります。」と述べておられます。

先日、私ごとであります。親戚の結婚式が八芳園で行われ、出席してまいりました。最初に案内係の方に、山形県長井市から来ました。一昨年の市制施行70周年記念事業では、いろいろお世話になり、ありがとうございましたと挨拶をさせていただきました。ああ、長井市からですかと。協定を結ばせていただき、いろいろお世話になっておりますと話をすると、こちらこそお世話になっておりますとの会話が進みました。宴席では司会者や料理長から長井の水はじめ、食材の説明があったほか、出席者に新郎新婦からは長井の麩菓子が記念品として配られ、長井のPRが行き届いているように感じました。また、エントランスサービスチームアシスタントマネジャーやバンケットサービスセクション会場責任者、本館調理セクション料理長等と協定について話をさせていただき、長井に対する関心の深さを感じてきたところでもあります。

八芳園とのパートナーシップ協定について、タスパークホテル長井との連携、首都圏での特産品販売や文化の紹介等、効果的な情報発信を行ってきたことは、長井市にとってよい成果を上げているように私は思います。これまでの成果と今後の課題について、市長の見解をお伺いいたします。

次に、安全で安心して暮らせるまちづくりについて伺います。

施政方針、各個別施策の主な取組、（1）安心して健やかに暮らせるまちづくり（健康・安心・安全分野）の中で、「安心した生活を送るためには、交通事故を未然に防ぐ交通安全の習慣化が不可欠であります。本市では、長井市自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例に基づき、自転車用ヘルメット着用等に係る広報啓発活動を推進し、交通事故のない安全で安心なまちづくりを目指してまいります。また、児童生徒の通学路見守りや園児、高齢者の交通安全教室を開催し、交通事故撲滅に努めてまいり

ます。近年、免許を自主返納する高齢者が増えていることから、市営バス特別乗車券の交付、フラワー長井線の利用券購入助成や運転経歴証明書の発行手数料助成をしてまいります。」と述べておられます。子供から高齢者まで幅広い年代について交通安全の習慣化について取組がなされております。

最初に、5月6日に発生した磐越道マイクロバス事故について、教育長に伺います。

新潟県北越高等学校のソフトテニス部が練習試合を目的として、遠征先の福島県双葉郡富岡町に向かう途中、福島県郡山市内の磐越自動車道磐梯熱海インターチェンジ付近でマイクロバスが衝突衝撃緩衝具（クッションドラム）に衝突した後、ガードレールに突っ込み、3年生部員1名が死亡、後続のワゴン車の搭乗者など26名が負傷、68歳のマイクロバス運転手が逮捕された事故であります。事故の経緯、状況についてはマスコミ報道等でご承知おきのことと思いますので、省略させていただきます。業者と学校の説明の食い違い、警察の捜査、国土交通省の検査、文部科学省の学校活動安全確保対策推進本部の設置等進められております。県内でも高校の部活動について調査が行われたところがあります。

中学校の部活動、地域移行が進められている中、各団体、スポーツ少年団やスポーツクラブ、文化クラブ等、大会や練習試合など移動の手段について不安を感じている関係者が大勢いることと思いますが、今回の事故の影響と今後の取組について、教育長に伺います。

次に、3月に京都府南丹市で発生した事件に関連し、不安を感じている市民の方々も多くいると思います。小学校の見守り隊の方々から、登下校時はもちろんのことですが、児童生徒が常に利用する通学路にも防犯カメラを設置してほしいとの声をお聞きしているところであります。最近の犯罪事件解決において、防犯カメラ

や車載カメラの果たす役割が大きくなってきているように感じております。

既に市街地には防犯カメラが設置されている場所もあります。市街地以外の通学路の設置状況はどうでしょうか。全ての通学路に設置することは無理だと思いますが、ポイントとなる通学路に安全環境を整えるためにも防犯カメラ、公用車等には車載カメラの設置が必要と考えますが、教育長の見解をお伺いします。

次に、同じ各個別政策の主な取組、（1）安心して健やかに暮らせるまちづくり（健康・安心・安全分野）の中で、「近年増加している野良猫の問題にしても、クラウドファンディングを活用した猫不妊・去勢手術費補助事業を継続し、県や近隣市町と連携しながら地域と猫のよりよい共存の形を目指してまいります。」と述べておられます。これまで近隣市町で最初に野良猫問題に取り組んできたのは長井市であります。クラウドファンディングで財源を確保し、ボランティア団体からの協力を得ながら活動を進めてきた経過があります。最近では近隣市町でも同様の取組を実施していることから、クラウドファンディングの金額についても減少していると報告を受けてきたところであります。

現在、物価高騰等の影響もあり、事業実施についても苦勞されているのではないかと心配しております。また、この事業を継続して実施していくためには、ボランティア団体との連携が欠かせないものと強く感じております。野良猫の現況とボランティア団体との連携状況、今後の課題について、市民課長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。

○内谷邦彦議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

金子豊美議員からは大きく2点について、ご質問、ご提言をいただきました。私のほうからは、1点目のパートナーシップ協定について、八芳園とのパートナーシップ協定について、タ

スパークホテル長井との連携や首都圏での特産品販売、文化紹介などの取組による成果と今後の課題はということでのお尋ね、ご提言でございます。

まず、東京・港区白金台の八芳園様とは、東京2020オリンピック・パラリンピックの私どもホストタウン、2か国行ったわけではございますけれども、そのアピール実行委員会というのがございまして、その際に主幹企業を務められました株式会社八芳園さんと、お互いを認識しながら、その後親しくさせていただいたところでございます。

ホストタウン事業というのは、その前後も含めて結構長い期間いろんな活動をしておりました。その中で、これは縁だと思ったんですが、現在の八芳園の社長を務めておられる井上さんのお父様が長井市の森出身だということで、大変意気投合しまして、その後、令和4年の7月に議員からありましたパートナーシップ協定を締結したところでございます。八芳園様のほうでは、全国、主に九州あるいは中国・四国周辺、また北陸などを中心に、東北も岩手のほうなどもあるんですが、7つぐらいの市、地方自治体と連携協定を結んで、地元のその地域地域の食材を生かした、あと食文化や歴史文化を生かす、そういった創作料理といいますか、そういったものを地元の自治体やら企業さんと一緒に作って、それを全国に、あるいはインバウンドも含めて発信されているということで、私ども長井のほうもぜひ様々な優れた食材があるのでいかがかというお誘いがあって、連携協定を結んだところでございます。この協定の意味というのは、八芳園様と相互連携を強化するというところで、私ども長井市にとりましては地域の活性化と食を中心としたブランド力を向上させるという目的で結んだところです。

これまでの主な取組について、金子議員からもございましたように、八芳園さんというのは

結婚式場ではございますが、結婚式場を中心とした、日本の伝統美といいますか、歴史や、また伝統文化、そういったものに裏打ちされた日本美、そして食文化を国内はもとより世界に発信しようということで、これは日本一の結婚式場でありますので、また、多岐にわたる様々な取組をしているので、改めて連携協定を結んで、すごい企業と連携協定を結べたなと喜んでいるところですが、結婚式についても単なる若い方々の結婚、披露宴だけではなくて、その人、その家族に寄り添って、例えば銀婚式だとか金婚式だとか、あとお子様がいらっしゃる場合はお子様が結婚された場合、あとは還暦のお祝いとかで、その人、そのご家族の生涯のライフサイクルに寄り添った、そういう提案をされているので、改めて私どもとしてはすごい企業の取組だなと、その大部分は井上社長が、オーナーはまた別なんですけども、自らあるいは同じ仲間の人たちと力を合わせて築き上げたということで、大変私どもとしては見習うところがたくさんあるということで、非常に喜んでいるところです。

途中で恐縮だったんですが、主な取組では、首都圏では令和4年の8月に同社が運営する東京白金台の「Mu Su Bu」というイベント会場、そこにおきまして、長井市の水をテーマとしたポップアップイベントを開催しました。このイベントでは水資源にまつわる歴史や文化を紹介するとともに、長井市産の夏野菜や米沢牛を使用した特別メニューを提供し、長井市の地場産品も販売いたしました。イベントを通じて長井市の魅力発信による地域の活性化、交流関係人口の拡大を目指し、その後も年2回程度、首都圏での特産品販売や文化紹介の機会を創出してまいりました。この「Mu Su Bu」でのいろんなイベント、これは長いときですと1週間ぐらい続けるんですが、そのハイライトとしてけん玉のスパイクのほうから、地域おこし協

力隊の人たちに来ていただいて、いろんな演技を見てもらったり、様々なけん玉のイベントをやったんです。そうしましたら、周辺の子供たちが大変大勢押し寄せまして、本当に子供たちでにぎわったと。その子供たちが後日家族と一緒にスパイクをもう何十組も訪れているということで、港区は国民の所得が市町村別ではトップでありますので、なかなか裕福な家庭が多い地域なんだと改めて思ったところです。

また、令和6年の7月には長井高等学校家庭部の生徒と八芳園のシェフが共同開発した米粉スムージーを「Mu Su Bu」で開催された長井市をPRするイベントで販売しました。こういった取組は地場産業振興と若者の地域への愛着の醸成につながるものと考えております。

さらに、昨年6月ですが、新たに高輪ゲートウェイという、山手線に駅ができたわけですが、高輪ゲートウェイシティ、これはJR東日本さんが造ったすごいビルなんです、このイベントにおきまして、イベント広場がございまして、長井市の特産品である、米沢牛、行者菜を使用したガパオライス、また、黒獅子をイメージした馬肉メンチカツサンドなどを提供して、大変好評だったということでございました。

さらに、12月には八芳園の運営するレストラン、FUDOとBUTAIがあるんですが、これは期間限定ではございましたけども、長井市産の食材を使ったメニューを提供する長井市フェアを開催いただきまして、米沢牛、つや姫、行者菜、玉こん、あけがらしなどを使ったご膳を提供、昼食を中心に提供していただいて、私もお招きいただいて試食させていただきました。そうしましたら、名前を言ってもいいと思うんですが、成田農産さんのつや姫を、そこは長井の水を使って炊飯しているんです。私は専業農家の長男ではありますが、あんまり米については関心なかったんですけども、そこのお米は何もおかずを食べないで、それだけ食べてみて、

すごくおいしくて、今まででこんなおいしい米食べたことないなと思うぐらい、炊き方とか、そういったところ、水も長井の水を使って、こだわっているんです。そんなことなどもございました。その後も継続的に八芳園のレストランや宴会の料理で長井産食材を使用していただいております。

金子議員も感じられましたとおり、これらの取組は長井市の認知度向上と新たなファン層の獲得、そして、観光客誘致につながるものと確信しております。加えて、長井市内での取組として、タスパークホテル長井との連携も進めております。昨年度から1階の和食処「井井殿」にて、八芳園とタスが共同開発したメニューを提供しております。また、一部の宴会メニューやタスを会場に実施されるイベント、例えばこの3月に開催された五蔵会、お酒の、中央会館の村田会長が中心に5つの酒蔵をみんなで応援しようという会なんです、新酒お披露目会の提供料理の監修などもいただいております。これらの取組は地元産食材を積極的に使用することを念頭にプロデュースいただいております、本市産業の活性化はもちろん、長井の食と文化のブランド力向上にも貢献いただいております。

タスパークホテル長井は、長井市の観光拠点として重要な役割を担っておりますので、八芳園との連携を十分に生かし、誘客促進につながるようなコンテンツを強化しながら魅力化を図ってまいります。

八芳園とのパートナーシップ協定は、長井市の地域活性化に向けた重要な取組の一つであります。今後もこの連携を最大限に生かして、長井市の魅力を広く発信することで、交流人口、関係人口の拡大に努めてまいりたいと思っております。連携協定から間もなく4年となりますが、引き続き八芳園との連携を大切にしながら、長井市のブランド力強化に向けて戦略性のある取組を積極的に進めてまいります。

なお、八芳園様のほうからは、昨年、新人研修ということで、4回にわたって約五十数名の新人が期間はどのくらいだったのでしょうか、一、二週間ぐらいか。

（「3週間ぐらい」の声あり）

○内谷重治市長 3週間ぐらいですかね。そして、長井市の農家の作業を手伝ったり、あと畜産農家も訪れて手伝ったり、市の和牛、米沢牛はこういうふうに飼育しているんだということやら、あとイベント、長井おどりとか、水まつりなんかも参加いただきましたし、実は明日ある黒べこまつりも、去年八芳園の新人の方が10名ぐらい協力してくれたんです、もちろん無償で。そしたら非常に好評だったんで、タスパークホテル長井からは、今年も何とかしてもらえないでしょうかということで、八芳園様のほうにお願いしたら、じゃあ職員を何人か派遣すると、もちろん無償でいいということで、そんな縁も持っていて、これからぜひ水なども、八芳園さんで料理用に使う水は、だしに長井の水が最適だということで、もう自ら業務用の20リットル、10リットルぐらいの水を自分たちで長井から持って行って、それを使っているということでもあります。

なお、八芳園のほうは、本館は大久保彦左衛門という、徳川家光の守り役をした方の旗本の屋敷跡で、都心の中で民地としては非常に広大な庭園があってすばらしいところでございます。それは我々、まねできないんですが、ぜひそういった取り組み方、しっかりとしたビジョンを持って、八芳園の経営だけではなくて、自分たちの使命として、日本の伝統美と食文化を広く国内外に発信していくということでございますので、私どももいろいろ学んでまいりたいと思います。

今後とも様々なご提言などいただければと思います。ありがとうございました。

○内谷邦彦議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私には、2項目め、安心で安全に暮らせるまちづくりの中で、特に部活動の大会等の交通手段についての安全確保について、それから子供たちの通学路等の防犯カメラによる犯罪の抑止、これについてご質問がありましたので、順次お答えをしたいと思います。

まず、家族の一番の願いは、小学生でも中学生でも高校生でも大きくなっても、行ってまいりますと言ったら、送り出したら、ただいまと言って帰ってくれる、これが一番の願いだと思います。そういったことからしても、今回の磐越道の事故につきましては、本当に未来ある命が失われるという痛ましい事故であったと思います。これについても私たちも含めて、市民みんなで安全を確保するということ、これを第一義にしたいなと改めて思ったところです。

さて、今回、文部科学省からこの事案を受けて、令和8年5月19日付の文書で、次のことが通知されました。1つ目、部活動における遠征、遠距離の会場における大会・コンクールへの参加を含め、校外で活動を行う際は、生徒の安全確保に万全を期すこと。2つ目、事業者に運送を依頼する場合には、適切な契約を行うこと。また、長距離の遠征等の必要の検討や公共交通機関を含めて移動手段の検討を行うことがありました。これについては、全く基本的なところですので、本市では、これらを遵守しながらずっと万全を図ってきたところであります。

なお、この機会ですので、改めて市内小・中学校にこの文書を基にして周知をするとともに、各校の危機管理マニュアルの内容点検、それから必要に応じた改定等を行うこと、さらにマニュアルに即した対応を確実に行うこと、これを学校と確認したところであります。

なお、本市では、部活動の遠征については、市内業者でつくる長井地区ハイヤー交通協会、これと契約をして、スクールバスを運行しておりますので、この点もご承知おきください。

中学校の部活動の地域展開に関する安全管理についてですが、これは長井市部活動地域展開ガイドラインというのをしております。これに基づきながら、地域クラブ、これが対応するもので、ちょっと部活動とは違うのですが、これにおいて、地域のクラブまたスポ少等については、事故を防止する対策、意識を深め、対策を講じるとともに、活動中のけが等に備えて保険に加入する、これを必須としているところ です。

大会等の交通移動手段については、これまでのスポ少や各クラブ等での取扱いと同様に、これは各団体が判断して実施していくことになります。今回の事故を受けて、関係者の中で不安が増していること、これは想像には難くないと思います。不安を小さくしていくためにも、地域クラブの指導者と保護者の間で大会の参加の目的、移動手段、行程、経費等について事前の確認を徹底し、保険内容の共有、非常時の連絡体制の構築、それから不測の事態に備えておく、これが重要だと思いますし、確かめておりませんが、どのクラブでもこれはきちっとしていると推察しております。

地域クラブ活動は、移動手段等に関わる判断は、繰り返しになりますが、クラブ等が主体的に判断すべきものではありませんけども、地域クラブ側と課題を共有するとともに、活動の指針となる本市のガイドライン、これに追記する等含めながら、注意喚起を一層図り、体制を整えていきたいと思っております。

続きまして、防犯カメラのことについてお答えを申し上げます。

児童生徒が利用する通学路の安全・安心に関しては、保護者の皆さんも非常に関心が高いと思いますし、この安全確保のために本当に各地域で様々な取組を実施していただいていること、まず改めて感謝申し上げます。教育委員会としては、まずカメラ搭載以上に登下校も含め

て未然に防ぐ、そのようなことのないような地域づくりも含めて体制を整えるというのが保護者ということだと思います。保護者、地域総がかりで安全体制を整えて見守る、これをまず第一義にしているということ、これもご確認いただければと思います。

先日もこれらを踏まえてなのか分かりませんが、市内小学校の学校運営協議会、この中で登下校時間に合わせて、家を出て子供を見守るというながら見守りですとか、それから青色の防犯パトロール、これを地域で取り組むことが話題になっております。既にそういったもので地域のほうでも動き出しているのかなとも思います。犯罪などを未然に防ぐには地域の力、地域の見守りが何より必要だということ、これを感じております。

さて、教育委員会の取組をまずご紹介いたします。通学路の安全確保の取組として、毎年度通学路安全推進会議を開催し、ここには長井警察署、長井地区交通安全協会、県道の管理者、市内小・中学校PTAの代表の関係者で通学路の危険箇所の共有、協議、これかなり極めて具体的に実施をしているところです。よくご存じだと思います。また、関係機関とともに、この危険箇所について現地の確認及び対策協議を行う通学路の合同点検、これも実施しております。

さて、防犯カメラのことについて述べたいと思います。通学路への防犯カメラについては、市長部局において、犯罪を予防する目的で設置している街頭防犯カメラ、これが該当するのかなと思います。なお、長井市街頭防犯カメラの設置及び管理運用規定、これがありますので、これを受けて現在9か所で設置をされております。この内訳としましては、長井小学校区内に6か所、それから致芳小学校区内に1か所、豊田小学校区内に1か所、平野小学校区内に1か所設置をしているところです。ただ、これだけでなく、これ以外の防犯カメラの用途として

活用できるものがたくさんあります。有害鳥獣対策、河川監視などのカメラ、これは有事の際は非常に効果を発揮すると思いますが、これらもこの防犯上には非常に大きな力を発揮すると捉えております。これらを含めると、本市が管理しているカメラですが、市内で49台稼働しております。加えて、総合政策課が中心となって、今年度事業として様々な目的で設置する防犯カメラにも活用できるようになり、計74台、これを新規設置する予定であります。したがって、年度内には合計で123台、これが稼働する体制となる見込みです。

また、車載カメラのこともありました。これについては、市営のバス6台及びスクールバス6台、この計12台には既に搭載されております。

さらには、スマートシティの一環として進めている子ども見守り端末、これがございます。利用希望があった219名の小学生が活用しておりますが、保護者がスマホで子供の登下校の状況が分かり、安全・安心につながっていると思っております。

以上のように、市内では子供を見守る温かい地域の目があり、さらに市の施策としても安全確保、そして防犯対策が広く講じられているところであります。今後も子供たちや保護者が安心して暮らせるように総がかりで取り組んでいきたいと思っておりますが、もし何かお気づきの点があればご指導くださればありがたいと思います。

○内谷邦彦議長 佐藤裕子市民課長。

○佐藤裕子市民課長 猫不妊・去勢手術費補助事業の継続につきまして、野良猫の現状とボランティア団体との連携状況、今後の課題についてのご質問にお答えいたします。

まず、野良猫の現状についてお答えいたします。

野良猫の数を正確に把握するのは難しいことから、市内で活動するボランティア団体「ニャ

ンとがし隊」の野良猫の捕獲数推移をもって答えに代えさせていただきます。

令和6年度までの5年間で、令和2年度は90頭、これは9カ月の活動期間による頭数でございます。続いて、令和3年度191頭、令和4年度122頭、令和5年度59頭、令和6年度58頭と減少している状況でございます。このほか、一般市民からの申請による長井市猫不妊・去勢手術費補助事業の利用実績として、令和4年度49匹、令和5年度74匹、令和6年度52匹、令和7年度47匹と横ばいに推移しており、毎年予算はほぼ100%執行となっております。

次に、ボランティア団体との連携状況ですが、市内のみで活動を行っている「ニャンとがし隊」と、寒河江市を拠点に県内で活動をしている「えんたね」の2団体があり、これまで長井市猫愛護活動事業費補助金を交付、活動の一助としていただいております。

野良猫は飼い猫として餌やりをしている個体との区別も難しく、専門知識を持つボランティア団体の協力が非常に重要で、捕獲から手術、その後地域に戻していくまでの活動におきましては、ボランティア団体の協力がなくてはならないものと認識しております。このことを踏まえ、今年度はこれまでの事業を振り返り、今後ボランティア団体との連携が円滑に進むよう、係内で調整を図ってまいりたいと思っております。ボランティア団体の皆様とは野良猫を一概に排除することなく、猫は地域の一員であるという同じ認識の下、地域の生活環境を維持するために良好な関係を構築し、事業を進めたいと考えております。

また、補助金の財源につきまして、令和4年度からクラウドファンディングを実施し、財源の確保に努めているところでございます。昨年までで延べ160名の方から204万2,000円のご寄附をいただいております。年度によっては金額の多少の多寡はあるものの、皆様の善意は今日まで

続いている状況でございます。

こういった行政の補助金のほか、民間の支援組織、公益財団法人どうぶつ基金のさくらねこ無料不妊手術事業などの周知など、情報発信も含め市当局側の責務をしっかりと果たせるよう、事業を推進してまいりたいと考えております。

最後に、地域猫活動は地域住民、行政、動物愛護団体等との共同活動になるものですが、特に地域住民の皆さんにご協力いただくことが非常に重要になるため、地区長の皆さんのご理解とご協力が不可欠であると考えております。猫の適正飼育の促進やボランティア活動の周知など広く展開し、ご協力いただけるような工夫を考えてまいりたいと思います。

○内容邦彦議長 12番、金子豊美議員。

○12番 金子豊美議員 それぞれ答弁いただき、ありがとうございます。

最初に、市民課長の答弁についてであります。4年ぶりにこの件について質問をさせていただきました。当時も予算的な面と様々な課題がある中、クラウドファンディングを利用しながら多くの市民の方、関係者の方々から協力をいただきながら始めたという経過があります。

先ほど質問の中でも申し上げましたが、近隣市町村でもそういった取組を始めたということで、長井市はもちろんですが、地域全体での野良猫に対する関心が増えてきたのではないかなと思っていますところでもあります。何といっても市民への周知を欠かさずやると、行うということが大切だと思っています。答弁でありましたように、係内の調整、あと各団体との連携、これが非常に効果的だなと思いますので、ぜひその辺、新しい取組として今後も引き続きやっていただきたいとお願い申し上げたいと思います。

それから、次に、教育長の答弁でありますけれども、思った以上にカメラの台数とか安全面に環境を整えていただいている感触を持ったところ

であります。教育委員会の教育長としての立場だけでなく、長井市全体の学校教育、社会教育も含めた教育分野のトップとして、今日、教育長の現状等の説明を受けさせていただいたということで、本当にありがたいなと思ったところでもあります。今後も引き続き様々な団体と連携を取りながら、安全面についてよろしくお願ひしたいと思っているところでもあります。

なお、部活動の地域移行、これについては各団体の取組、それが主になるわけありますけれども、機会があるごとに総合政策課になるか、教育委員会になるか、あるいは地域づくり推進課になるか分かりませんが、所管の団体のほうでも機会があるごとに、そういった話を出していただいて、常に関心が薄れないように今後も努めていただければなと思ったところでもあります。

最後に、市長の答弁であります。私も初めて今回八芳園のほうに行ってまいりました。ここに説明はしていなかったんですが、途中、会場の中移動するときに、長井の水の動画を映していただく場所もあったり、様々その都度長井のことをPRしていただいたということで、想像以上に浸透しているなという部分がありました。今後もこの事業については継続していただくのは当然であります。もっともっと広い分野で、例えば今回、山形新聞に数日前載ってあったんですが、日本酒の魅力を探るということで、田植手伝いに、お酒用の米ですか、そういったことでもいろいろ交流の幅が広がっているなと感じたところでもあります。

今後もぜひこの事業が発展するようにご期待申し上げながら、私の一般質問を終了したいと思います。ありがとうございました。

竹田陽一議員の質問